

毎年この時期になると、周南市八代にナベツルが渡来し、冬の訪れを感じさせてくれます。八代のナベツルは県鳥であり、渡来地とともに国の特別天然記念物に指定されています。観光で多くの人々が訪れる秋吉台・秋芳洞も特別天然記念物です。

天然記念物と聞くと、珍しい自然のものだけと思いがちですが、実は皆さんの周りにも多くの天然記念物があることをご存じでしょうか。

グラフは、国指定天然記念物の都道府県別件数の全国順位を表したもので、山口県は全国1位です。

山口県に天然記念物が多いのは、ゲンジボタルやエヒメアヤメなどの動植物、日本海の荒波を受けた断崖・絶壁・洞門など多様な地形や雄大なカルスト台地など、自然が豊かであることがあげられます。

しかし、何より大きいのは、地域の人々の自然を守ろうとする心かもしれません。

天然記念物に指定されているものの多くは、イチヨウやスギなど珍しいものではありません。けれども、長い間大切にされてきたことで、イチヨウは全国一高い「龍蔵寺のイチヨウ」（山口市）、スギは「平川の大スギ」（同）「大玉スギ」（周南市）になりました。

また、エヒメアヤメ（下関市、防府市）は、地域の人々が丈夫な柵で囲み、草刈りを行うなど保護増殖に努めており、春に青紫色のかれんな花を咲かせています。

八代のナベツルも手厚く保護し、自発的に狩猟をやめたことで、八代が本州唯一の渡来地になったと考えられています。山口県の天然記念物は、自然を大切に守ろうとする地域の遺産とも言えるのです。

